宗教者９条の会・大分　にゅーす　57

●発行：宗教者９条の会・大分　●〒879-5102 由布市湯布院町川上3561 見成寺　TEL 0977-84-2257　FAX 0977-84-5203

原子力発電所の廃炉を求める意見陳述

真宗大谷派 見成寺 住職　日野 詢城

私には17才年上の伯父がいました。弟のように可愛いがってくれ、一緒に野原で植物採取をしたり、蝶々を追っかけたりしたこともあります。空に舞い上がる蝶を楽しげに見ていた伯父は、私が13歳の時、亡くなりました。

夏休みに2人目の子供が生まれ、その秋のことでした。バイクの練習中に転んで怪我をしたと聞いていました。病院で手当を受けましたが、怪我の程度は軽いということで、翌日は普通に学校に通ったという。事故から2日目の授業中に頭痛が激しくなり病院に行ったと言います。入院して3日後には亡くなり、死因は「被曝による白血病」だと言います。学徒動員で長崎の工場にいた伯父は、地獄のような街の惨状を見て、山に逃げたという。敗戦の知らせも知らず、山を彷徨い続け，8月の末に帰宅したと聞かされていますが、それ以上の詳しい話はしたくないようだった。

被曝から13年目の死だった。「原爆医療法」が制定された翌年である。法制定の有無も知らないままだったのだろう、被曝手帳は持っていなかった。2人の子供の父になって契約した生命保険は、被曝の申告がなかったという理由で保険金は支払われなかった。

人が神を生み出すとき
すべてのものは
　　神に飲み込まれ
人は魂を失い
　　世は魔境に入る

日本国憲法　第9条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

出力調整実験

伯父が亡くなった頃、「原子力の平和利用」という言葉が、新しい時代を謳歌する様に飛び交っていた。私はその言葉に抵抗はなく、チェルノブイリの事故まで「原発」に対して全くと言ってよいほど無関心であったと思う。80年代の初め、若狭でご縁のあったお爺ちゃんに連れられ、初めて原子力発電所に行きました。その時「子供や孫達の仕事場が得られると期待し、誘致に賛成したが、この土地はわし等の時代でもう終わりだ。誰も住むことができなくなる。」

大分合同新聞　2019.11.1.

（第３種郵便物認可）

「基準は住宅以下」

差し止め 大分訴訟　耐震性巡り住民側

伊方原発

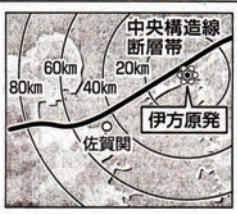
四国電力伊方原発（愛媛県伊方町）の運転差し止めを大分県民569人が求めた訴訟の第14回口頭弁論が31日、大分地裁（佐藤重憲裁判長）であった。住民側の代理人弁護士らが意見陳述し、「原発の耐震基準は住宅よりも低い」などと訴えた。

徳田靖之弁護士（75）は原発の基準地震動（耐震設計の基準となる揺れ）について「地震を正確に予測するのは不可能。これまで全国で原発の想定を超える地震動は何度も発生している」と指摘。

過去に国内で観測された最大の地震動を前提に5千ガル（ガルは加速度）の耐震基準を採用した住宅メーカーもあると説明し、「伊方3号機は650ガルレベルにとどまっている」と述べた。

7月の追加提訴で原告に加わった由布市湯布院町川上の見成寺前住職、日野詢城さん（75）も法廷に立った。長崎原爆で被爆した伯父が白血病で亡くなった経験を語り、「絶対という概念は人間には成り立たない。原発が安全な装置という考えは幻想だ」と強調した。

四国電は全面的に争っており、今後、反論の書面を追加で出す方針。



と、ふと洩らした姿が思い起こされます。

１９８６年のチェルノブイリの原発事故から２年足らずの、１９８８年２月に四国電力・伊方原子力発電所で出力調整実験が実施されました。原発そのものの危険性が訴えられ、多くの人が原発について学び始めたそのタイミングで「コストダウンのための出力調整実験」が強行されたのです。２万人を超える人々が全国から集まり、実験の中止を求めました。

１９８８年の出力調整実験反対運動の中、四国電力本社前の集会が始まって２時間程たった時、混乱を避けるためか、代表者による交渉が電力会社の会議室で行われると発表され、会場や廊下などに多くの人が詰めかけました。議論は真っ向から対立、怒号の中で１時間余りの時が過ぎ去りました。「絶対安全」を繰り返す電力会社の答弁を聞きながら、私どもは徒労感を覚え始めていたその時、１人の女性が悲鳴のような声で安全だと言い張る技術者にむかって叫んだ。〝あなたは神なのか……！〟

会議室は一瞬沈黙に覆われました。電力会社の技術者はしばらくして「私は神ではありません。」と答え、「20万分の１の事故率だから安全だ。」と議論の方向を転換しました。しかし確率の安全性はあくまで想定で、何の保障もないことはスペースシャトル・チャレンジャーの事故で証明されていました。それでも続く安全性の議論が空転する中、もはやどんな言葉も説得力を失い、企業側は逃げるように退席しました。

その直後、実験は強行され、会場はどよめいたが、実験結果は公表されませんでした。その後に同じような実験をしたということも聞いていない。「出力調整はできない」という結論だったのだと思う。

２０００年９月13日の朝日新聞特集『忘れられないあの言葉』で「あなたは神なのか」という言葉をあげ、その時の気持ちを述べました。

忘れないあの言葉

あなたは神なのか

「危険な実験はやめろ」

「いや、絶対に安全だ」

一九八八年二月、高松市にある四国電力本社で、同電力伊方原子力発電所（愛媛県伊方町）の「出力調整実験」に反対する市民と企業、国の間で押し問答が続いていた。本社周辺では全国から集まった二万人を超す阻止派と機動隊がにらみ合っている。

出力調整実験は、電力需要に合わせ、夜間は出力を落としてコストダウンを図るもので、世界初の試みだった。

しかし、①現在の原発はこうした実験を前提として作られていない②その結果、調整作業で装置に温度差が生じ、金属疲労を起こす、などの危険が指摘されていた。

夕方から始まった交渉は平行線のまま二時間を超そうとしていた。交渉団の中にいた大分県湯布院町の住職日野詢城（しゅんじょう）さん（五六）は、ひたすら「絶対安全」を繰り返す技術者の答弁を聞きながら、徒労感を覚え始めていた。

そのとき一人の女性が、日野さんの背後からその技術者に向かって叫んだ。

「あなたは神なのか」

会議室を一瞬、沈黙が覆った。技術者はポカンとしていたが、しばらくして「私は神じゃない」とぽつり。

「あの言葉が空気を変えた」と日野さんは言う。

「別々の方角を見ていた双方がつかの間、視線を共有した。つまり人間は過ちを犯すものだという当たり前のことを確認したわけです」

これを境に企業側は「絶対」という言い方を引っ込め、「事故の確率は二十万分の一」という数字で説得にかかってきた。こちらは米スペースシャトルのチャレンジャー事故を持ち出して応戦する。

ハカタユリ

「チャレンジャーも二十万分の一と言われていたが、二十五回目に爆発事故を起こしたではないか」

もう企業側のどんな言葉も説得力を失った。しかし追いすがる市民らを振り切って彼らは一方的に退席、実験は予定通りに行われた。

十年以上も前のことなのに日野さんは、当時と少しも変わらない新鮮さであの言葉を思い出す。

「どんなに優れた科学技術でも、その陰に必ず不確かな人間がいる。そのことを決して忘れてはならないと思います」

文・川上　義則
切り絵・戸田　幸一

2000年９月13日　朝日新聞

人間は不完全な存在

私はその時の光景から一つの共有すべき視座があると感じています。

神なのかと問われると、「神だ。」「絶対者だ。」「間違いなどあるはずがない。」等と答えられるはずがない。つまり「絶対」という概念は人間には成り立たない。必ずどこかに漏れがあると言うことです。それを佛教では「有漏の知」といいます。不完全な存在だということを知る知恵です。人が、その立ち位置を間違え「絶対だ」とか「私は悟りを獲た」「神だ」などと言うとき、「魔境に入る」と言われています。絶対者が現れ、それを信じる人が集まると迷信が始まります。一度そのことを信じてしまうと、死をも恐れず、殺をもためらわなくなるといわれます。

科学の分野でも「科学を迷信する」ということが起こっているのだと思う。それが〝原発〟だと言えないでしょうか？「安い電源」「無限大のエネルギー源」「安全な装置」など、何れも幻想だと解ってきたはずです。　取り返しのつかない過ちを犯したと思わないのでしょうか。　様々な問題を抱え、危険な存在だと解ったとき、その過ちを糾す道はただ一つ・「脱原発」であり「廃炉」でありましょう。原発関連の多くの研究者や技術者は蓄えたその技術をもって、道筋をたて廃炉の道を辿ることが、今待たれているのだと思います。

それが人類の責務だと思います。稼働すれば無限に増殖する放射能の問題を放置することはできない。福島の事故処理ができない間は、せめて再稼働をしない。その約束から次のステップへと進む責務があなたの会社にあるのだと述べます。

沖縄に基地はいらない！

真宗大谷派 安養寺　林 正道

人間のいのちの尊厳を守ろうと、「国連軍縮週間」に呼応して開催されてきた「日本宗教者平和会議」は今年、10月21日（月）～23日（水）まで沖縄・那覇及び宮古島で開催されました。今年は、沖縄の島ぐるみ宗教者のたたかいに連帯し、辺野古新基地の建設反対、土砂投入の中止を求める沖縄本島、自衛隊のミサイル基地建設に反対する宮古島の取組みから学び探求しました。

第1日目の21日は、開会あいさつのあと、島ぐるみ共同代表の稲嶺進氏（前名護市長）が、「辺野古新基地の建設中止を」と題して講演。「27年間、米軍の占領下にあったが、〝平和憲法の下にもどろう〟と闘い、1972年に日本に復帰した。しかし、今なお沖縄に米軍基地の70％以上がおかれるなど構造的な差別を受け、大きな怒りと矛盾が噴出している。世界一危険と言われる普天間基地をなくすのを口実に、辺野古に米軍の新基地を建設しようとしている。これを阻止するために、広範な人々と手をつないで全力で頑張りたい」と訴えました。

続いて谷大二さん（カトリック教会名誉司教）と岡田弘隆さん（真言宗糸満長谷寺住職）が、『島ぐるみ宗教者の会』の歩みについて報告。2014年10月22日、キャンプシュワブ・ゲート前で「辺野古に新たな基地を作らせない　宗教者の集い」を20人の共同代表で開いた後、参院選で伊波洋一候補、名護市長選で稲嶺進現職市長、県知事選で玉城デニー候補、衆院補欠選挙で屋良ともひろ候補を推薦して奮闘。16年12月には「高江で宗教宗派による祈りとアピール」行動を行い、18年9月25日には「翁長さんを偲ぶ集い」を開くなどの取組みを進めてきました。現在の共同代表は53人に増え、パンフ『命ドゥ宝　沖縄の基地問題を理解するために』も1万部発行し活用しています。

2日目の22日の午前中は、辺野古への激励と抗議行動へ。しかし、この日は天皇の「即位の礼」で祝日。いつもは土砂を積んだダンプ数百台が通過するキャンプシュワブ・ゲートは閉鎖、抗議行動も中止になっていました。辺野古のテント村も、この日の座込みは中止。テントも、台風の被害から守るため、巻き上げられていました。現地の代表が案内してくれ、「政府は、2018年12月から辺野古海岸に土砂を投入し始めた。大浦湾は、珊瑚やジュゴンなど生物多様性の宝庫として残っている『奇跡の

海』だ。海を埋め立て、基地を建設するのはとんでもない。建設予定地の海域には軟弱地盤があり、２つの活断層の真上に弾薬庫や滑走路が予定されている。新基地の周りには、高専や小学校、民家など軍用機使用の際の高さ制限を超える建物が多数ある。新基地建設は絶対にとん挫する」と。

午後からは宮古島へ。日本キリスト教団宮古島教会の坂口聖子牧師が、「沖縄の小さな島から『宮古島』のいま～自衛隊配備で危険にさらされている島の人々～」と題して講演。「宮古島は人口５万５千人の小さな島だが、年間１００万人の観光客が訪れる。今、中国の脅威を口実に南西諸島島嶼（しょ）防衛が叫けばれ、急激に軍事化が進められている。佐世保には陸自水陸機動団（海兵隊）、佐賀空港にはオスプレイ17機、奄美大島や石垣島にもミサイル基地が建設されようとしている。宮古島では、旧千代田ゴルフ場に新しいミサイル基地が建設されている。ヘリパットが作られ、弾薬庫や燃料給油所もあるが、この真下には活断層が通っている。島の東の保良（ぼら）には大規模なミサイル保管庫が建設されようとしている。平良（ひらら）港は急ピッチで岸壁工事が進められようとしている。海上自衛隊最大の護衛艦「いずも」を空母に改装し、垂直離着陸も可能な「Ｆ35Ｂ戦闘機」と共に運用されようとしている。米軍と自衛隊の一体化した水陸訓練場が高野漁港に作られようとしている。島のいたるところで基地建設が進み、陸、海、空すべての軍事施設が整えられている。島が軍事攻撃の標的になれば、逃げ場にない多くの住民は危険にさらされる。『ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会』をつくり、反対運動に立ちあがっている。全国のご支援を！」と訴えました。

３日目の23日は、ホテルを朝６時に出発して、坂口牧師の案内で陸自宮古島訓練場造成工事の抗議行動の支援に。周りには、〝ＮＯ！宮古島にミサイル基地はいらない〟などのノボリが林立しています。小生も、自衛隊員や工事関係者に、「安倍内閣は、２０１３年に国家機密法、15年には安保法制＝戦争法、17年には共謀罪を強行採決して、自衛隊が海外で戦争できる準備を着々と進めている。私たち日本国民や宗教者は、かつての侵略戦争に全面的に協力加担させられてきた痛恨の想いから、何としても『再び戦争は許さない！』と様々な行動に立ちあがっている。宮古島や石垣島でも陸自警備隊と地対空・地対艦ミサイル部隊の配備が強行されようとしており、絶対に許してはならない」と呼びかけました。千代田のミサイル基地建設の現場では、私たち宗教者もそれぞれの教団・宗派の教えに従って、「祈り」を捧げました。

２０１９年度会費納入者

掬月誓成／菅野俊光／岳林寺／丸木一哉／佐藤福子
佐々木淳二／日高幸男／堤栄三／川野孝康／藤村暢
遠入佐代子／泉暁子／林正道／河野通成／環文隆／三上英範
木津 英展／安養寺／長久寺徳純／西郡均／長野義人・カヨ子
石井康司／黒野光治／槙島治朗／西藤真／平山胖／津垣慶哉
菅真由美／永徳光明／無着成恭／尼子芳淳／藤音浄明／日高礼子
藤井邦麿／松下和義／河野光男／藤吉文佳／森典正／野口春夫
野口幸子／日野詢城／掛橋泰定／清原えつ子／古谷聡

世話人（◎代表者）

酒迎　天信
日本山 妙法寺
日野　詢城
大谷派 見成寺
林　正道◎
大谷派 安養寺
古谷　聡
大谷派 蓮照寺
佐々木淳二
大分メノナイトキリスト教会
掛橋　泰定
日蓮宗 妙栄寺
大在　紀
本願寺派 長光寺
野口　春夫
日本基督教団津久見教会

編集後記

会報が１年ほど途切れましたこと深くお詫び致します…日本製の「武器見本展」のようなものが開催されたという報道も。武器の輸出は禁じられているはず、売り込まなければ在庫で苦しむ…何処の国の話かと思う。

改憲の地ならし、国民の判断が問われる時が来た。（詢）

宗教者９条の会・大分 事務局 〒879-5102　由布市湯布院町川上 3561 見成寺
TEL 0977-84-2257　FAX 0977-84-5203　年会費 3,000 円　郵便振替口座 01720-1-111731